

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 長良川流域滞在型観光推進プロジェクト事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 観光国際局 観光企画課 観光資源係

電話番号：058-272-1111 (内 3058)

E-mail：c11334@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,000千円 (前年度予算額：4,000千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,000	2,000	0	0	0	0	0	0	2,000
要求額	4,000	2,000	0	0	0	0	0	0	2,000
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

平成27年12月に「清流長良川の鮎」が世界農業遺産として認定されたことを契機に、長良川上・中流域にある魅力的な観光資源を、岐阜市、関市、美濃市及び郡上市の4市共通の広域的な観光資源として捉え、周遊・滞在型の観光地づくりを加速度的に推進するため、県及び4市・観光関連団体が連携し、「長良川流域観光推進協議会」を、世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会内の専門部会として設立した。

平成28年度から、流域内での情報発信体制の整備、観光マーケティング調査、常時提供可能な体験プログラムの造成、流域内の交通事業者(長良川鉄道、岐阜バス、NEXCO)等と連携した周遊滞在商品の造成、宿泊施設と観光事業者が連携した取り組みの実施などを、国の交付金を活用して進めてきた。令和3年度は、これらの成果を踏まえ、効果的な情報発信に引き続き取り組むほか、これまでに造成した長良川体験チケットや、各種体験プログラムを活用した旅行商品の造成、周遊企画の実施等を進めていく。

(2) 事業内容

県と長良川流域の4市（岐阜市、関市、美濃市、郡上市）が連携して、長良川上・中流域を周遊・滞在させる観光地域づくり事業を推進する。

協議会事業【事業費：8,000千円（うち県費：4,000千円）】

- ・情報発信体制の強化
- ・長良川体験チケット等を活用した周遊滞在を促す取り組みの実施
- ・観光マーケティング調査の実施 等

(3) 県負担・補助率の考え方

協議会事業は、県が4,000千円、4市が各1,000千円負担する。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金	4,000	協議会負担金
合計	4,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県長期構想

Ⅱ ふるさと岐阜県の資源を活かした活力づくり

3 地域の魅力を高め、観光交流を拡大し、消費を増やす

（人を呼び込み、地域の消費を拡大するために）

岐阜県成長・雇用戦略2017

観光産業の基幹産業化プロジェクト

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

2. しごとをつくる

(2) 観光産業の基幹産業化

(2) 後年度の財政負担

県と4市が連携して広域的な観光振興に取り組むため協議会で実施することが妥当。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

（事業目標）

長良川流域周辺の観光資源や旅行プランを積極的にPRすることで、観光入込客、宿泊客を増やし、観光消費額の増大を図る。

- 観光消費拡大につながる質の高い観光資源づくり
- 主要観光地の魅力を活かした観光誘客プロモーション
- 世界に選ばれる観光地づくり

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値	目 標	達成率
		(H28)	(H29)	(前々年度末時点) (H30)		
観光消費の経済波及 効果	— 億円 (H -)	4,601億円 (H28)	4,175億円 (H29)	4,172億円 (H30)	5,000億円 (R2)	83.4%
観光入込客数（実数）	— 万人 (H -)	4,696万人 (H28)	4,556万人 (H29)	4,603万人 (H30)	4,600万人 (R2)	100.1%
外国人延べ宿泊者数	— 万人 (H -)	101万人 (H28)	98万人 (H29)	102万人 (H30)	150万人 (R2)	68.0%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・体験プログラムのブラッシュアップ
- ・WEBプロモーション
- ・自転車を活用した周遊型体験プログラムのPR動画作成
- ・フォトコンテストの実施

（前年度の成果）

R1年度実績 ※（ ）の中は、事業開始前の数値

- ・4市の主要観光施設の入込客数 521,935人（327,283人）
- ・体験プログラム造成件数 86商品（8商品）
- ・宿泊施設と連携した商品数 25商品（0商品）
- ・長良川流域で2市以上を滞在した人の率 52.2%（8.5%）

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	観光滞在時間及び観光消費額の増大を図るためには、長良川流域周辺に存在する観光資源を連携させ、観光客を周遊・滞在させる仕組みを作ることが必要であり、本事業の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	本事業を通じ、4市が一体的に取り組んでいく動きが出てきている。また、今までエリア内に無かった、周遊滞在を喚起する仕組み、サービスが生まれている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	県、4市が共通の課題に対して一体的に実施するため、それぞれで実施するより効率的である。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 エリア内で持続的に観光地経営が出来る体制の構築

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 事業規模、実施体制について関係者と協議し進めていく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 組み合わせる理由や期待する効果 など	【○○課】
--	-------